

認知症になっても安心して暮らせる社会を

月刊 POLE-POLE (スワヒリ語)

2016  
SEPTEMBER

No. 434

9

# ぽ〜れ ぽ〜れ

ゆっくり  
やさしく  
おだやかに

Alzheimer's Association Japan

## 認知症の人と 家族の会 理念

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、  
人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穩に続けられなければならない。  
認知症の人と家族の会は、ともに励ましあい助けあって、  
人として実りある人生を送るとともに、  
認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を希求する。

家族の会  
きょう・明日

## 夏の定例理事会を開催

「安心要望書」を決定し、国際会議などのテーマを論議 (3面)

厚生労働大臣に  
「安心要望書」を提出

真摯な取り組みを申し入れる (10面)



青森県支部  
7月支部会報から

浅虫温泉「支部交流・研修会」にあつまる  
「つながる楽しさ・うれしさ」

32th International Conference of Alzheimer's Disease International Kyoto 2017  
国際アルツハイマー病協会 (ADI)  
第32回国際会議2017 in 京都

2017年

4月26日(水)~29日(土)

国際会議  
まであと 213日!

<26日> ADI 評議員会、登録受付デスク開設、歓迎会



佐賀県支部  
7月支部会報から

震災を乗り越え一堂に会した  
九州・沖縄ブロック会議  
懇親会で笑いあり、涙あり

電話相談 0120-294-456

(月~金・10時から3時) 協力/住友生命保険



発行/公益社団法人 認知症の人と家族の会  
Alzheimer's Association Japan

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館内  
TEL.075-811-8195 FAX.075-811-8188  
ホームページ/ www.alzheimer.or.jp Eメール/ office@alzheimer.or.jp

# 「安心要望書16年版」を決定、大臣あて申し入れ、 国際会議、会員増の取り組みなど決める

夏の理事会開く

夏の定例理事会が京都で開催されました。従来は1日のみの開催だったのですが、増えた議題に対応できるように今年から2日間となりました。

18人の理事全員と、中村重信（国際会議関係）、勝田登志子両顧問、浜田昭監事（1日目）が出席。全国研究集会の議題の際には、開催支部の長尾一雄長崎県支部代表、松尾文子事務局長も出席しました。また、早川一光顧問も顔を見せ、出席者に語りかけました（次ページ）。

今回の中心的な議題の一つは、6月の総会に提案したあと、二度にわたって支部からの意見を求めて協議してきた「認知症の人も家族も安心して暮らせるための要望書（2016年版）」を決定することでした。理事会でも支部、会員からの意見を一つひとつ検討して、全員の合意で決定しました。この要望書は、8月31日に厚生労働大臣あてに申し入れ（10ページ参照）、同日の社会保障審議会介護保険部会で花俣ふみ代委員（理事）が「家族の会」の考えを説明しました。また、厚生労働省記者会で会見して発表しました。



2日間にわたって開かれた夏の理事会（8月20日、21日。京都社会福祉会館）

8ヵ月後に迫ったADI国際会議での理事の役割を確認し、参加登録、演題発表登録が始まり、機運が盛り上がってきたことを確認し、「家族の会」支部からも取り組み発表を促すこと、参加登録を進めることが協議されました。また、京都、東京で関係5団体が協力して開催するプレイベントの成功を目指すことも協議されました。

なお、世界アルツハイマー月間で会員増を目指すことも確認され、支部への呼びかけ文が決定され、24日に通知されました。

## 2016年度「世界アルツハイマーデー」に寄せて

厚生労働大臣 塩崎 恭久

2016年度「世界アルツハイマーデー」に当たり、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

国際アルツハイマー病協会が9月21日を世界アルツハイマーデーと定めてから本年で23年目を迎えました。この間、わが国でも「公益社団法人認知症のひとと家族の会」が中心となり、認知症に対する理解の向上を図る活動などが広がってまいりました。高見代表理事をはじめ、関係者の皆様のご尽力に対し、深い敬意を表する次第です。

我が国の認知症の方は、2025年には65歳以上の高齢者の約5人に1人となることを見込まれており、認知症施策に国をあげて取り組むため、安倍内閣総理大臣のリーダーシップのもと、昨年1月に認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を策定しました。「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す」という基本的考え方の下、医療、介護サービスに限らず、関係省庁が連携しながら取組を進めていきます。

世界的にも、今や認知症は共通の課題となっています。本年5月に我が国で開催されたG7伊勢志摩サミ

ットでは、首脳宣言に認知症施策の推進が盛り込まれました。

世界で最も速いスピードで高齢化が進んできた我が国には、認知症ケアや予防に向けた好事例が多くあり、これを国際的に発信していくことは我が国に期待されている役割の一つであるといえます。その代表例である認知症サポーターは、世界から非常に大きな関心を寄せられている取り組みの一つであり、イギリスが取り入れ、他の国にも広がっています。

今月には、神戸においてG7保健大臣会合があり、認知症施策の国際的な推進をより加速化させるための議論を進めております。

認知症の人が、認知症とともによりよく生きていくことができるような環境を整備していくためには、行政とともに民間セクターや地域住民自らが、様々な主体がそれぞれの役割を果たしていくことが求められていると言えます。「認知症のひとと家族の会」の皆様方には、今後とも御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、認知症の方やそのご家族の皆様のご多幸と、関係団体の皆様のますますのご発展を祈念して、私のお祝いの言葉といたします。

たので紹介します。世界アルツハイマーデーに寄せて、厚生労働大臣からメッセージが届きました。



# 本人登場 私らしく 仲間とともに No.135

（左から）中倉さん、  
福田さん、松尾文子さ  
ん（支部事務局長）



## 福田人志さん

53歳・長崎県支部

11月の長崎県での全国研究集会で登壇、発表  
される福田さんをご紹介します。

（編集委員 鈴木和代）

### ふだんのすごし方

僕は2年前に若年性アルツハイマー病と診断されました。それから半年余り何もできなくなり、絶望の毎日でした。その頃から歌を詠むことで自分の気持ちを表現してきました。やがて任意後見人の中倉さんと二人で制作活動に取り組むようになり、「壺行の会」を立ちあげ、作品の展示会を開くまでになりました。今年1月からは展示会を兼ねて、認知症カフェ「峠の茶屋」をスタートさせました。

普段は体調によりますが、週に3～4回ほどお昼まで障がい者自立支援施設へ通い、精神障がいをもつ仲間たちと、お弁当作りのお手伝いをしています。お昼からは中倉さんと一緒に、土・日も含めて「壺行の会」の制作活動を行っています。デッサンや色ぬりなど2～3時間ぐらい作品作りに没頭しています。

### 今の楽しみとこれから

今、僕が楽しみにしていることは、同じ認知症の方達と会って、お話しすることです。お互い同じ目線で心に思っていることや、誰にも言えないことなど、少し時間はかかっても打ち解けあえます。物忘れによってイライラしたり、パニックになることはあり、困ることもありますが、病気になったことを悔やまずに、これからも今の状態を

福田さんと中倉さんの作品▶

▼作品を説明する福田さん



維持しながら、認知症の人をはじめ、行政や医療の人達・専門職の方々とも意見交換を行っていきたいと思います。

### 全国の本人さんへのメッセージ

不安に押しつぶされたり、苦しく思い悩んだりすることが続くことがあっても、大切な自分の思いだけは失っていないはず。思いどおりにならなくても、諦めずに自分らしく堂々と毎日を過ごしてほしいです。そして、すぐ身近な人に自分の思いを正直に伝えることです。それがやがて自分の幸せに繋がっていきます。人目を気にせずに、やりたいことをやれるライフスタイルを自分で築いていくことができれば、これからの人生の目標や、やりがいが生まれて、周りの人たちを幸せにできると僕は信じています。この記事が皆さんのターニングポイントになれば嬉しいです。



### 本人交流の場

（詳細は各支部まで）

宮城●10月6日・20日(木)10:30～15:00  
／本人・若年のつどい→泉区南光台市民センター  
山形●10月15日(土)13:00～15:00／本人のつどい→すこやかセンター2階視聴覚室

●10月20日(木)13:30～15:30／若年性の人と家族のつどい→若宮病院  
埼玉●10月26日(木)11:00～13:00／若年のつどい・大宮（北区）→大砂土ふれあいの里  
富山●10月1日(土)13:30～15:30／てるてるぼうずの会→サンフォルテ  
岐阜●10月16日(日)11:00～15:30／若年性認知症介護のつどい→各務原市・ニッケかかみ野苑  
●10月23日(日)11:00～14:00／若年性

認知症介護のつどい→岐阜市・アルト介護センター長良  
愛知●10月8日(土)10:30～15:00／若年本人・家族「元氣かい」→東海市しあわせ村  
三重●10月16日(日)13:30～15:30／若年本人交流会と家族のつどい→四日市総合会館  
広島●10月1日(土)11:00～15:30／陽溜まりの会東部→福山すこやかセンター  
福岡●10月1日(土)10:00～12:00／あまやどりの会→福岡市民福祉プラザ

## 厚生労働大臣に「要望書」を提出

## 真摯な取り組みを申し入れる

8月31日、厚生労働大臣に「認知症の人も家族も安心して暮らせるための要望書」を提出しました。提出には、田部井副代表、鈴木森夫、花俣ふみ代、長谷川和世の各理事と広岡成子千葉県、宮原節子茨城県の2支部代表、安藤幸男埼玉県支部事務局長が臨み、厚労省からは、蒲原基道老健局長、宮腰奏子認知症室長が出席しました。



蒲原老健局長に要望書を手渡す田部井副代表ら

「介護の社会化に向けて制度の充実を」と危機感を持って訴える「家族の会」に対し、蒲原老健局長からは「財務省と違い、『財源がないから』との理由だけで介護保険を後退させることはしない。消費税の10%への引き上げを前提として盛り込んだ認知症施策は別に財源を確保

して実施したい」などの見解が述べられました。切実な課題となっている要介護2までの給付削減などについては、「部会の議論を待って」とのこと、具体的な回答は得られませんでした。各出席者から出された「家族の会」の意見については、真摯に耳を傾けていただきました。

11月6日(日)  
長崎でお会い  
しましょう

第32回

認知症の人と家族への援助をすすめる

長崎県支部設立30周年記念大会

## 全国研究集会in長崎

日時 2016年11月6日(日)  
9:30~16:00

テーマ

～寄りそう 心で 支え合う～

会場 長崎ブリックホール  
長崎市茂里町2-38

認知症の人と家族を支える地域包括ケアを目指して

参加費 一般 2,000円(税込)  
(資料代含む) 学生 1,000円(税込)

定員 1,200人

わが国では、2025年を目途に“地域包括ケアシステムの構築”を推進しています。このような中で認知症の人と家族を支援する体制は、どのように進めていけばよいのか。また、そのためには何が必要なのかを考える機会とします。シンポジウムでは、地理的条件、社会資源が異なる長崎県を中心に、介護体験者の報告をもとに、厚生労働省認知症施策推進室の宮腰室長他7名と共に、これからの姿を皆さんで考えていきます。

また、全国のオレンジカフェのポスター展示もあります。皆様のご参加を心からお待ちしております。

長崎県支部代表 長尾一雄

## シンポジウム

地域の中で認知症の人と家族を支えるためには

～介護家族の体験をとおして考える～

\* 宮腰 奏子氏  
厚生労働省認知症施策推進室長

\* 出口 之氏  
出口病院地域型認知症疾患医療センター長

\* 宮本 峻充氏  
宮本外科理事(「家族の会」長崎県支部顧問)

\* 江田 佳子氏  
佐々町住民福祉課地域包括支援センター課長補佐

\* 深堀 優氏  
長崎県緑が丘地域包括支援センター長

\* 林田 京子氏  
新上五島町地域包括支援センター管理者

\* 鈴木 森夫  
「家族の会」理事

\* 渡部三津子  
介護体験者(「家族の会」長崎県支部副代表)

◎コーディネーター：宮川 由香 長崎県支部世話人

講演 10:00 ~ 11:00

地域包括ケアシステムが育てる  
寄り添う医師のこころ

長崎大学医学部地域包括ケア教育センター  
教授 永田 康浩氏

## 特別発表

認知症の歌

～若年性認知症の僕の役割～  
長崎県 福田 人志氏

## 事例発表

宮崎県 山口 孝治氏  
岡山県 高橋 望氏  
京都府 鎌田 松代氏

公益社団法人認知症の人と家族の会・長崎県支部 TEL・FAX 095-842-3590  
〒852-8104 長崎市茂里町3-24 長崎県総合福祉センター県棟4階  
研究会申込み：(株)日本旅行長崎支店 FAX095-825-8552

「家族の会」HPから  
参加申込み書のダウンロード可

# 会員さんからの お便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、  
「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしております！

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル  
京都社会福祉会館内  
〈「家族の会」編集委員会宛〉

FAX.075-811-8188

Eメール office@alzheimers.or.jp

ぼ〜れぼ〜れ7月号  
「おしつけられている？」を読んで

## 旦那さんにつらさを伝えましょう

●宮城県 Aさん 50歳代 女性

私の住む町内会は今でも、「長男家族は親と同居」「親の介護は長男の嫁が主体」の考えが残っています。私は、去年1月にアルツハイマー型認知症の義母89歳を病院で看取りました。

10年前、義父が入院し、3組の義姉家族と私達末っ子長男夫婦が集まった時に私から「義母が認知症の疑いがある、介護を手伝ってほしい」と懇願しました。姉達からは「母は認知症ではない。できることはするが、親の介護は長男の嫁が主体」と返事があり、夫と私の覚悟ができました。私達夫婦も、姉達も認知症を全く知らず、混乱の生活でした。自宅介護の限界をケアマネに判断してもらい、精神病院内の介護病棟に4年余入院しました。姉達には手紙で義母の病気やけが、終末期等、包み隠さず報告した上で、長男である夫が決断してきました。義母の葬儀で出会った姉達は、それぞれの体調不良や介護で大変だった事を知りました。

3年間の介護で、Eさん自身が限界になっているようで気になります。心身のダメージで取り返しのつかないようになる前に、一番身近な旦那さんに打ち明けてほしいと思います。どうぞ、お元気でありますように。

ぼ〜れぼ〜れ8月号  
「好きなことをするを実行中」を読んで

## 「病気だから」では納得できません

●高知県 Bさん 50歳代 女性

Aさんは、ご自身が発達障がいをもっているという事を、ご両親のケアマネさん、主治医、介護のサポートをして下さる方たちには告知したのでしょうか？告知してからAさんにもサポートはありますか？どのように連携してこられたのか、今すぐにでも伺いたいです。

私も発達障がい（ADHD、LD）があるので、認知症の母への対応はまずいところだけで、自分が介護うつになってしまいました。母と二人だけにならないよう、自分に対してもサポーターを依頼している最中に、ケアマネさんは母を有料老人ホームに入れてしまいました。遠くに住み、今まで一切介護に関わらなかった姉の指示に従っていました。この2ヵ月、ケアマネさんからの連絡はなく、自分から連絡したら「あなたは病気だから」と無視されました。母（87歳）の、「私も一緒に暮らしたい」という意思是、母が認知症の診断を受けた時から変わりません。

Aさんは、ご自身の介護力をどのようにして高めていったのでしょうか。そして、どのように同居を認めてもらったのでしょうか。「発達障がい」というだけで、「介護は無理」と決めつけるケアマネさんや医療関係者に疑問を持ち、納得がいきません。



## 介護保険をこれ以上後退させてはいけない

●滋賀県 Cさん 80歳代 男性

介護保険は2000年4月にできました。私は妻が1994年に若年性アルツハイマー型認知症と診断され、「呆け老人と家族の会」と介護保険で救われた体験をしていますので、この介護保険をこれ以上後退させないで下さい。保険料の上昇はやむを得ないと思いますが、介護保険の内容をこれ以上悪くするのは困ります。内閣はもっと介護保険の内容を検討すべきだと思います。介護する人の待遇も、もっとよくすべきと考えます。

## 丸くなったおばあちゃん

●岩手県 Dさん 50歳代 女性

東日本大震災の大津波で自宅が被災し、仮設住宅暮らしをしていましたが、この度やっと、高台集団移転先に新居を構える事ができました。

震災前から、家族にしかわからない認知症の初期症状（被害妄想等）が出始めていた義母は、避難生活で認知症が進み、周りも、自らも認めるところとなりました。30年間同居していた私は、仮設住宅は隣同士（程良い2世帯住宅）でガス抜きしながら「何か困った時はいつでも呼んでね」と壁たたきを我が家のナースコール代わりにしていました。夜中でも時間におかまいなしの認知症の人にとって、不安になったりわからないことがあった時に、すぐ教えてくれたり一緒に解決しようとしてくれる人の存在が、何より安心につながることを改めて認識した次第です。

この5年間で角が取れて丸くなり、「生きているだけで有難い」「忘れても仕方ない」「若い人たちがちゃんと教えてくれるから良いんだ」と、めんこいボケばあちゃんになっています。



## 自分自身への嫌悪感

●京都府 Eさん 50歳代 女性

91歳、要介護3の母を看ています。レビー小体型の疑いがありますが、いい時と悪い時が交互になってきます。

私自身は、2年半前に乳がんの手術を受け、現在はホルモン療法にて服薬中です。フルタイムで仕事もしています。日々、日常的なことはデイサービス、ヘルパーさん、ショートステイを利用し、皆様のお力を借りて何とかやっています。

私が一番苦しいのは、「早く死んでくれたらよいのに」と思ってしまうことのある自分自身への嫌悪感です。あと、私自身は絶対長生きしたくないと思うようになったこと…。これも少し苦しいです。

## 認知症はひとごと

●神奈川県 Fさん 60歳代 女性

夫が自分で「この頃、変なんだ…」と言い、すぐ脳神経外科を受診しましたが、「異常なし」と言われ、翌年には、「若年認知症」と診断されました。

自分で「変」と言って10年たちましたが、泣いている暇もない程、忙しく過ごしました。そして夫は今年4月、徒歩7分の場所に新設されたグループホームに入居しました。

この10年で感じていることは、「自分が介護者にならないと、みんな認知症のことはまるでひとごとにしか思っていない」ということです。

※お名前はイニシャルではありません。  
年齢は「50歳代」等で表記しています。